

～健康のまち行動計画策定にむけて～

「ウェルネス・アクションつる」その6

知恵・アイデア



・ミニコミ誌の取材を通してAさんは…

まちの中には、様々な趣味や仕事を持つ元気な人がたくさんいるし、その人達を支え、励ます人もいます。それぞれの力をつなぐような体制づくりが、必要ではないでしょうか。

また、都留文科大学の学生もいろいろな活動をしているので、もっと市民と大学生の輪を広げ、活用したらいいと思います。

第3回市民懇話会が1月18日に開催されました。前回の市民懇話会は、健康のまちをめざしてそれぞれが持つ「ねがい、夢」を語り合ったのですが、今回はその意見をもとに「知恵、アイデア」を出し合いました。

・子育て中の母親であるBさんは…

老人保健施設のボランティアを通して、高齢者とのふれあいを楽しんだ中で、今暮らす地域の中でも、同年齢の「横のつながり」だけでなく、異年齢の「縦のつながり」を持っていきたいと思いました。例えば育成会と老人クラブとの行事など。

・地域の様々な活動に、積極的に参加しているCさんは…

自治会単位で男女年齢を超えた学習の場を作ったり、地域の人材を掘り起こして、自分だけでなく、他人のために役立つ機会としても、ボランティア活動の推進、高齢者自身の参加、学生との共存など、様々な活動を進められないでしょうか。

高齢者同士は仲間に囲まれて生活したいと思っています。グループホームのような施設も考えていく必要があるのではないのでしょうか。

・学校教育現場からDさんは…

学校だけで子ども達の「生きる力」を育むことは、難しい現状にあると思います。学校や行政、市民、大学生との壁をできるだけ低くし、子ども達との交流を進めていく必要があると感じます。学校の中に地域の人達が入りし、子ども達にかかわってもらうことで、子ども達が自分の役割を再認識したり、人とのつながりを実感したりすることができるのではないのでしょうか。

また、「自分たちが夢みる東桂」と題して、何人かの小学生に、作文を書いてもらいました。その一人、梅崎隆義くんの作文を紹介します。

「東桂は将来、どう変わるかわからない。だけど僕たちの手で変えていくことになると思う。

もし僕が変えることになったら、まず、みんなが安全でいられるようにしたい。なぜなら、事故や災害は、何のまふぶ

れもなくやってくる。ここですばやく、適切な処置や指示を出せば、被害者は最小限に食い止められると思うからだ。

二つめはみんなが健康に暮らせるようにしたい。貧しい人が病気になったら進んで援助してあげたり、ホームレスの人を老人ホームなどに行くようにすすめたり、お年寄りが一人でも行けるような病院を作ってあげたりしたい。安全と健康は違いう、安全とは人々が安心でいること、健康とはけがや病気をしないことで、笑顔でいることだ。(中略………)

どんなに良い東桂になっても、住民一人ひとりの意見を大切にできなければ良いとは言えない。だから、どんなに小さな意見でも真剣に取り組み、良い結果をだしてほしい。

実際に活動するのは、何年も後のことだけど、東桂といっしょに育ち、学び、大きくなって、実現させたいと思う」。

意見

交換

・公開講座から恒常的につながりがもてる場が欲しいと、有志による「都留市まちづくりネットワーク」が具体的に進められています。興味のある方は参加してほしいです。点が線へとつながってきたように思います。

・地域の力の掘り起こし、地域にどれだけ活動できる人材がいるのか、学校としては「地域の教師」、または「高齢者の活動の場」を求めています。それぞれの目的に即したものを選出し、効果的に実現できるものにする必要があると考えます。

・「地域に未来はあるか」と言われた時に拠点となる場がどれだけあるかによろと思います。このような場は地域の活性化につながるのだと思います。

・福祉の面での関心があります。学校の空き教室などを利用して、グループホームや託児所みたいな高齢者や子ども達などが集まれる場所を作りたいが、自分ひとりでは難しい。そのような場があれば自分自身を役立てたい。世代を超えた集まりの場では、何かが生まれてくるのではないかと思います。

次回の市民懇話会第4回目は、3月下旬です。

テーマは「力」



都留の大地の小さな種が少しずつ芽吹く準備を始めたようです。大きな花を咲かせ、実を結ぶためには、惜しまない光と水、十分な時間が必要です。じっくり、大切に、ていねいに…。

ウェルネスアクション・つるに対するご意見をお待ちしています。

問合せ いきいきプラザ都留 健康推進課 ☎(46)5111(代)